

生産能力3割向上

半導体製造装置 向け微細加工 須藤精密、設備拡充

【立川】須藤精密(東京都瑞穂町、須藤恒男社長、042・557・5700)は、半導体製造装置用治具



の生産能力を高めるため、高速高精度小径加工機を導入した。同社が保有する従来機に比べて、主軸の回転数が

2倍の1分間当たり8万回転で、微細化が進む半導体製造装置の加工精度と生

産速度に対応する。これにより、微細加工事業の生産能力を3割高めた。

同社は、直径50ミリの細穴加工を100ミリのピッチで穴開けする微細加工などを手がける。約2000万円を投じ、微細加工事業の生産体制を再編。碌々産業(東京都港区)

製の小径加工機「XII-80JII写真」を1台導入したほか、工場内のレイアウトを変更し、生産効率を高めた。

さらに難削材加工に対応した生産体制を構築する。既存の小径加工機5台のうち、一部の生産能力の難削材の加工に充てる。現在、

チタントレーの生産を進めており、微細加工で培った加工技術を活用する。チタントレーは、1ミリの角のポケットサイズで角R(角の丸みの半径)は0・2ミリの精度に対応する。須藤精密は1973年に設立。半導体製造装置向けの治具や精密機械加工部品の施策を手がける。